

鎮魂とは何か

—東日本大震災の記憶をめぐる樹木の表象について—

周 藤 真 也

「鎮魂」とは、死者たちの魂を鎮めるのではない。鎮めなければならない魂は、生者たちの共同体であるわれわれのそれである¹⁾。

1. はじめに

女性アイドルグループ AKB48 の楽曲「桜の木になろう」(作詞：秋元康、作曲：横健介)は、同グループの 20 作目のシングル CD の表題曲であり、2011 年 2 月 16 日にキングレコードから発売された(推定売上枚数：108.2 万枚)²⁾。この楽曲以降、同グループはシングル CD において 15 作連続でミリオンセラーを記録することになる(2013 年 12 月現在も記録更新中)³⁾。

この楽曲は、AKB48 のコアなファンからは評価の高い楽曲の一つであり、作詞者であり同グループの総合プロデューサーである秋元康も自身が同グループに提供したものうち、ベスト 5 に入る楽曲として挙げている⁴⁾。しかしながら、この楽曲は、その後、表立って演奏されることはなくなってしまふ⁵⁾。

-
- 1) こうしたテーマは、いわゆる「死の社会学」と呼ばれる社会学のジャンルのメソドロジーとなっている。代表的な研究として副田(編)(2001)などを挙げるができる。
 - 2) オリコン「AKB48 が 2 年連続 3 作以上ミリオン達成で史上初の快挙！」『WEB WEEKLY オリ☆スタ』の 2012 年 09 月 04 日 04 時 00 分付の記事に基づく (<http://onlystar.oricon.co.jp/news/music/1772/>) (2013 年 12 月 17 日閲覧)。
 - 3) もちろん AKB48 グループの CD の売上と販売戦略をめぐるには、複数枚購入するファンの存在について「AKB 商法」などと言われ、揶揄するような意見もある。確かに CD の売上枚数が必ずしも購入したファンの実数を表しているとは言えないが、同グループが相当数のファンを獲得していることは事実ではないかと思われる。
 - 4) 秋元が Google+ に投稿した 2012 年 1 月 25 日午前 2 時 24 分付の記事(記事内では、午前 2 時 23 分付)。 <https://plus.google.com/113474433041552257864/posts/F8LXSixDZT4> (2013 年 12 月 17 日閲覧)
 - 5) 筆者が調べた限り、2011 年 3 月 11 日以降、AKB48 がこの楽曲を披露した機会は、東京ドームシティホールで行われた AKB48 グループのコンサート「リクエストアワーセットリストベスト 100 2012」(2012 年 1 月 19 日～22 日)の 3 日目に、「第 30 位」の曲として披露された以外に、確認することができなかった(他の事例があれば指摘いただきたい)。このコンサートは、ファンによる楽曲の人気投票に基づいて、全 4 日間を各日 25 曲ずつ、100 位から 1 位に遡っていく形で披露する毎年 1 月に恒例のコンサートである。したがって、こうした趣旨からして、このコンサートで「桜の木になろう」を披露することは、演奏することの正当性がはじめから確保されていた。ただし、このコンサートでは、前年発売のシングル曲は軒並み上位に来るのが通例であるが、「桜の木になろう」は

もちろん、その背景には、この楽曲が桜という季節性⁶⁾のある事物を織り込んだ楽曲であり四季を通じて披露するのにあまり適していないこと、同グループが多数のミリオンセラー曲を出す中で、この楽曲が代表曲とはみなされていないこと、といったこともあるだろう。だが、この楽曲については、演奏されなくなった理由として、東日本大震災との関わりが同グループのファンたちの間で指摘されている⁷⁾。東日本大震災の原因となる東北地方太平洋沖地震が起こった2011年3月11日当時において、最新のシングル曲であったのがこの楽曲であった。とある東京在住の同グループのファンは、東日本大震災の際、東京で帰宅難民になり、この楽曲を聞きながら長時間歩いた思い出を語る。ファンの間では、この楽曲を聞くと東日本大震災を思い出し、涙が出てくると告白する者が何人もいる⁸⁾。同日以前には音楽番組や同グループが出演するドラマ、CD自体の宣伝などで、テレビ等で頻繁にこの楽曲が流されていた。つまり、マイナーの旋律を奏でるこの楽曲は、同グループのファンだけでなく、日本社会において、東日本大震災と結びついて記憶されており、そのことがこの楽曲が「封印」される理由となっていると考えられるのである⁹⁾。

本稿は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震を原因とする東日本大震災において、その記憶にかかわる樹木の表象について検討することを目的としている。本稿で取り上げる樹木は、具体的には、桜、松、そしてハナミズキである。それらは、あるものは、死者の生まれ変わりに見立てられ、またあるものは、生者たちあるいは死者たちを象徴す

30位であり、前年に発表されたシングル曲の中では最下位であった。翌2013年の「リクエストアワーセットリストベスト100 2013」では、100位以内に入ることすらできなかった(115位)。

なお、本曲は最近になって、AKB48のメンバーのソロデビューシングルに、アコースティック・ヴァージョンとしてカバーが収録されたり、中国・上海を本拠地とする姉妹グループSNH48により、中国語版「化作櫻花樹」が2013年6月に発表されたりしている。

- 6) AKB48は、発足した2005年12月以降、2011年に至るまで、毎年春に桜を歌った楽曲をシングルCDの表題曲として発表してきていた(ファンの間では「桜曲」と呼ばれる)。AKB48の文化的な功績を挙げるとするならば、桜の花を入学のシンボルから、卒業、別れ、再会などを表すシンボルへと再構成したことを挙げるができるかもしれない。ただし、桜(ソメイヨシノ)の開花日の平年値は、過去30年(1981~2010年)のデータで、山陰から南関東を結ぶ北緯35度あたりで3月末日であり、西日本と関東地方は4月10日ごろまでに満開を迎えるので(気象庁「さくらの開花日と満開日の観測方法と等期日線図(平年)」<http://www.data.jma.go.jp/sakura/data/sakura2012.pdf> (2012年11月13日付、2014年1月10日閲覧)、必ずしも卒業シーズンに桜が開花しているとは言えない。旧平年値(1971~2000年)と比べて多くの地点で2日程度早くなっているとはいえ、東京の開花平年日は3月26日である(ウェザーマップ「トピックス さくら2011」『気象人』<http://www.weathermap.co.jp/kishojin/topics/201201sakura.php>、2014年1月10日閲覧)。なお、2012年以降、いわゆる「桜曲」は発表されていない。
- 7) 「【名曲】桜の木になろうって過小評価されすぎだろ」『2ちゃんねる』(「地下アイドル(AKB48)(仮)」板スレッド)<http://awabi.2ch.net/test/read.cgi/akb/1329731213/> (2012年2月21~23日、各まとめサイトの記事により2013年12月17日閲覧)。
- 8) 「桜の木になろうのPV見ると泣けてくる」『2ちゃんねる』(「地下アイドル(AKB48)(仮)」板スレッド)<http://awabi.2ch.net/test/read.cgi/akb/1355278480/> (2012年12月12日、各まとめサイトの記事により2013年12月17日閲覧)。
- 9) 音楽がそれを聞いていた当時の出来事を想起するメディアとなるのは、経験的に言って一般的に見られる現象であり、特に歌詞のある楽曲(歌)の場合、そうした傾向が強いように思われる。

る。そうした、樹木を人間に見立て、死者との関わりにおいて位置づけようとする人間の象徴的実践において、生者たちの共同体である社会はどのように慰撫されるのであろうか。まずは、冒頭に取り上げた楽曲に織り込まれた死生観から検討することを通して、考えていきたい。

2. 「桜の木になろう」に織り込まれた死生観

AKB48の楽曲「桜の木になろう」が、何らかの死生観と結びついた楽曲であることは、しばしば指摘されてきた。このことは、主に、次の二つの手段によって人々に提示されていた。一つは、この楽曲に添付されたミュージックビデオ（MV）においてであり、もう一つはこの楽曲をテーマ曲としたテレビドラマにおいてである。

発売する楽曲に宣伝用にミュージックビデオを作成することは、日本においては1980年代中盤以降次第に広がっていき、今日では一般的になっている¹⁰⁾。また、2000年代に入るとそうしたミュージックビデオが付録としてCDに添付して販売されるようになり、さらには有名動画配信サイトには、発売元が公式的にミュージックビデオをアップロードするようになっていく。AKB48の楽曲「桜の木になろう」の場合、インターネットの動画配信サイトYouTubeにおいてAKB48の公式アカウント¹¹⁾で発表された6分14秒のミュージックビデオ¹²⁾（以下、「通常版」と呼ぶことにする）と、一部がCFとして使われた46秒のダイジェスト映像¹³⁾が存在している。そして、店頭等で販売されるCDには、Type A、Type Bのいずれのバージョンにおいても、付録するDVDに、12分51秒の「完全版」のミュージックビデオが収録されている¹⁴⁾。

このミュージックビデオはドラマ仕立てになっている。ただし、46秒のダイジェスト映像には桜の下で花びらと戯れる同グループのメンバーと歌唱シーンしかなく、どのようなドラマであるのかはまったくわからない。そこで、通常版のミュージックビデオを見ると、ようやくドラマの輪郭が見えてくる。だが、まだドラマ全体がどのようなものであるかははっきりとはわからない。だから、ドラマの全体像を知るためには、付録DVDが添付されたCDを購入する必要があり、この点において、CDに添付されたDVDにのみ収録されている完全版のミュージックビデオの存在は、販売促進にもなっている。

ドラマのあらすじを紹介しておく。ドラマに登場するのは、AKB48の（当時の）主要メンバー5名（前田敦子、板野友美、小嶋陽菜、高橋みなみ、大島優子）と、SKE48（後

10) こうした経緯から、日本では、プロモーションビデオ（PV）と呼ぶことも多い。

11) <http://www.youtube.com/user/AKB48>

12) <http://www.youtube.com/watch?v=n9hNT5ezcnc>（2013年12月17日閲覧）

13) <http://www.youtube.com/watch?v=nN4bQn6lrN8>（2013年12月17日閲覧）

14) ミュージックビデオの監督は是枝裕和である。

にAKB48のメンバーを兼任)の松井珠理奈の6名である。6名は中学校の同級生であり、松井は中学生当時に交通事故により13歳で亡くなっているという設定である¹⁵⁾。ドラマは、AKB48の主要メンバー5名が中学校卒業5年後(亡くなってから7年後)に、亡くなった同級生(松井)の墓参りをするというシーンからはじまる。その帰り道、松井の両親を訪ね、出身中学校を訪ねる。ここで桜の木の下で花びらと戯れる回想シーンに切り替わり、ついで同級生たちの最近の日常生活が、それに寄り添い見守る松井の姿と共に描かれる。受験浪人した受験生(小嶋)、大学生(高橋)、バーテンダー(板野)、シングルマザー¹⁶⁾(大島)、OL(前田)の日常生活が次々と描かれ、最後に中学校訪問シーンに戻り、同級生に肩を押され桜の木の方へと入っていく松井が描かれる。つまり、このミュージックビデオで描かれているのは、いまだ成仏していなかった松井が、桜の木になることによって、永遠の生を受けるといふ物語である。

ところで、YouTubeで公開された通常版と、DVDに収録された完全版には、次のような細かな異同がある。通常版には、中学校訪問で卒業アルバムを開いて見ているとき、ある写真に一同が目を留めると全員が黙り込んでしまうシーンが収録されていない。一方、完全版には、時間的にはその直後に相当する中学校の校庭の桜の木の下に、在校生に紛れている松井の姿を発見するシーンが収録されていない(在校生には松井の姿は見えていない)。さらに、完全版には通常版で二度ある桜の木の下での歌唱シーンが収録されていない¹⁷⁾。通常版で描かれる歌唱シーンは、いずれもかなり引いた位置から全員を撮影してお

15) このドラマの主演は、前田敦子と思われ、桜の木の下で、桜の花びらと戯れるシーンでも、前田と松井が登場する。なぜ早世した同級生の役が松井であるのかについては、松井が他の5名のメンバーと比べてはるかに年少であり、現にこのミュージックビデオが発表された当時、現役の中学生(2年生)であったことが一因となっていると考えられる。ただし、松井がAKB48に対して果たした役割において、この起用が必然性をもっていたという解釈も可能である。松井は、2008年に「SKE48 オープニングメンバーオーディション」に合格して名古屋にできたAKB48の姉妹グループSKE48のメンバーとなったが、同年10月22日に発表されたAKB48の10枚目のシングルCDの表題曲「大声ダイヤモンド」において、前田と並んで「センター」に抜擢されている(当時、松井は11歳の小学6年生、前田は17歳)。

AKB48は、8枚目のシングル「桜の花びらたち2008」(2008年2月27日、デフスターレコーズ)において、CD1枚毎にもらえるポスター44種全てを集めた人をイベントに招待する企画を行い、全種を集めるには確率論的に200枚購入しても60%程度であることから、「不公正な取引」として独占禁止法に抵触する恐れがあることが指摘され、イベントの中止を発表した。こうした同グループのファンに同種のCDを多数購入させる販売手法は、「AKB商法」と呼ばれ批判の対象ともなったが、そうした中、当時のレコード会社との契約が終了し、次作をリリースできない事態に陥る。9枚目のシングル「Baby! Baby! Baby!」(2008年6月13日発売)は、ネット限定配信という変則的な形態で発売され、CDの形態で販売することができなかった。当時、スタッフやメンバーの間では、同グループはもう終わりかも知れないという危機的な雰囲気があったという。そうした中で、当時SKE48に加入したばかりの松井が参加して、前田と「ダブルセンター」を組んだ10枚目のシングル「大声ダイヤモンド」は、AKB48のその後の「快進撃」の起点となる作品となった。つまり、松井が早世した同級生の役を演じたのは、松井が同グループの「死」と「再生」において、「消滅する媒介者」(Jameson 1973)であったことを意味していると読み取れることもできるかもしれない。

16) 「大島の子供」役として登場するのは、子役タレントの井上琳水(りんな)であるが、その名前がドラマ内で呼ばれるとき、「りんね(輪廻)」にも聞こえる。

17) この歌唱シーン、すなわち校庭の桜の木のシーンや学校の校舎前のシーンは、茨城県の常陸太田市立瑞竜小学校で撮影された。校庭の桜の木は、「瑞桜」と呼ばれ、同市の名所の一つとなっており、

り、卒業アルバムの中に納められている集合写真を表していると解釈することができる。最初の歌唱シーンには、後列に空席がある（通常版）。つまり、同級生たちは卒業アルバムの集合写真に、なぜか松井の姿が写っていないことに気づき（完全版）、校庭の桜の木の下に彼女の姿を発見する（通常版）のである。そして、彼女が桜の木になったことは、最後の歌唱シーンで全員が揃っていることによって確認される（通常版）。つまり、完全版のミュージックビデオは、通常版で描かれていない歌唱シーンの意味の謎解きをする構成になっている。

一方、この楽曲をテーマ曲としたテレビドラマ「桜からの手紙～AKB48のそれぞれの物語」（企画・原案：秋元康、脚本：旺季志ずか）は、日本テレビ系列において2011年2月26日～3月6日まで9夜連続で放送された¹⁸⁾。このドラマは、2011年3月6日（＝最終話放送予定日）に卒業から3年がたったAKB48のメンバーが演ずる同窓生たちが、母校の校舎の前にある満開の桜の周囲に集まるシーンを起点として、3年前の回想という形式で始まる。3年前当時、彼女たちはこの学校（「東京女子清和大付属碑文ヶ丘高校」という架空の高等学校）の同級生（当時3年生）であり、卒業を3ヶ月後に控え、進路や友人、異性関係等、さまざまな悩みを抱えていた。そうした中、クラス担任教師が、突然に余命3か月を宣告されたことを理由に、教職から退くことを宣言するところから物語ははじまる。その担任教師（前田先生¹⁹⁾）が在職中に熱心に世話をしていたのが、校舎の前にある桜の木である。この桜の木は、物語の舞台である高校を象徴する存在であり、校章に意匠化され、この高校は別名「桜高校」を呼ばれるようなシンボリックな存在であった。だが、その桜の木は今や瀕死の状態で、春になっても花をつけることができず、校長は切り倒そうとする。そうした桜の木を再生させようと必死になって世話をしていたのがクラス担任教師の前田先生であったが、生徒たちは自分たちの面倒は見ずに桜の世話ばかりする前田先生を快く思っておらず、退職する際にも教室には歓迎のムードも流れていた。

このテレビドラマにおいて、重要な役割を果たすことになるのは、クラス担任教師が退職の際、生徒一人一人に宛てた手紙である（これがドラマのタイトル「桜からの手紙」の由来である）。そこには、わずか1、2文しか書かれておらず、もらった生徒たちはどういう意味なのか計りかねるところか、気持ち悪く思った生徒も少なからずいた。しかし、この手紙は、クラス担任教師が生徒たちの一人一人のことをきちんと見ており、的確なアド

樹齢約80年に及ぶ桜の木の保存活動が地元で行われている。なお、1873年に創立された同小中学校は、学校統合により2012年3月末で閉校となっている。

18) 日本テレビ「桜からの手紙～AKB48それぞれの卒業物語」番組サイト <http://www.ntv.co.jp/akbsakura/>（2013年12月17日閲覧）。なお、本ドラマは、2011年5月にDVDソフトとして発売されている（「桜からの手紙」製作委員会、発売元：バップ）。

19) このドラマにおいて、AKB48のメンバーは、すべて同名の役で出演している。クラス担任教師が前田姓であるのは、当時同グループの主要メンバーであった前田敦子の父親という設定のためである。なお、この役を演じた俳優は上川隆也である。

バイスになるものであることが、物語が進むに次第に明らかになる。

AKB48は、多人数のグループであるが故に、主要メンバー（つまりは人気メンバー）を一通り主役として登場させるとともに、特定のメンバーが主演となる回だけを同グループのファンが見るといった視聴形態になることを避ける必要があったのだろう。このドラマは、放送は9回であったが、第2夜の2月27日から第5夜の3月2日までは、各回3話ずつの放送であり、また各主要メンバーが主役となる物語も、2回から3回に分けて放送された²⁰⁾。「現役的女子高校生」役として登場するAKB48のメンバーは、誰しも何らかの悩みや問題を抱えている。そして問題に行き詰ったとき、クラス担任教師からの手紙に書かれた言葉が意味をもって立ち現れ、問題の解決に役に立つ。つまり、表題の「桜からの手紙」とは、未来に起こりうることを的確に予想して、必要な対処法をあらかじめ手紙に書き記した「未来からの手紙」であった。

ドラマの最終回において、生徒たちは、桜の木の下で、余命幾許もなくなった元クラス担任教師を招き、手作りの卒業式を行う。結局、その年の春もまた、桜の花は咲かなかったけれども、校舎の前の桜の木は、生徒たちが作った造花によって飾り付けられていた。そしてその桜の木の下で、生徒たちによって披露されたのが「桜の木になろう」であった。ドラマ内において、この楽曲は、クラス担任教師がかつて作詞作曲をして作ったという設定で、「仰げば尊し」や「蛍の光」に代わって、生徒たちによって歌われたのである²¹⁾。それからほどなくして、元クラス担任教師は亡くなる。しかし、3年後生徒たちが母校を訪ねたとき、クラス担任教師が一所懸命に世話をし、生徒たちが必死に守った桜の木は花をつけていた。それを見て、元クラス担任教師が、桜の木になったのだと生徒たちは悟り、改めて歌詞の意味を知るのである。つまり、ドラマの表題の「桜からの手紙」とは、未来において桜となった担任教師からの手紙であったのだ。

桜を人の死の生まれ変わりとする物語は、いくつかの文学作品、特に小泉八雲の説話文学「乳母桜」、「十六桜」（いずれも『怪談』（1904年）に収録）や、梶井基次郎の「桜の樹の下には」（1928年）で知られるところである²²⁾。「乳母桜」は、重い病にかかった少

20) 放送スケジュールは、同番組サイトから確認できる。<http://www.ntv.co.jp/akbsakura/schedule/index.html>（2013年12月17日閲覧）

21) ドラマ中でも、そしてCD音源においても、この楽曲は確かにユニゾン（斉唱）で歌われているが、CD音源では、倍音の効果によって合唱のように聞こえるところがある。それが、制作者側によって意識的に狙ったものであるかどうかは、定かではない。

22) 桜に対しては、しばしば日本文化論の文脈の中で、日本人の死生観として語られてきた。その中には、桜の花の散り際を、儂さ（無常）を表すものとして、またその潔さは武士道の精神を表すものとして（それはしばしば近代日本における軍国主義と繋がるものとして批判されてきた）、あるいは花が散っては葉が芽吹き、冬には葉を落として春にまた花が咲くサイクルを輪廻と見なして語られてきた。しかし、無常は桜の花に限るものではないし、潔さの称揚は死生観というより死への憧憬というべき事柄であるし、四季のサイクルは輪廻というよりも自然の摂理であって様々な自然物に見出すことが可能である。だから、桜に関わる死生観の核心は、死者の「生まれ変わり」として捉えることにあるように思われるのである。なお、ここで言う「生まれ変わり」とは、インド思想や仏教、ヒンドゥー教などの教義にみられる輪廻転生を意味するというよりも、素朴な信仰における転生の思想で

女を、我が子のように愛していた乳母が寺に自らの命と引き換えに助けるよう願掛けをし、お礼と記念に桜の木を植えてくれと言って亡くなる物語であるし、「十六桜」は、ある侍が自宅の庭の枯れ果てた桜の老木の前で切腹を行い、命と引き換えにすることによって、その侍の命日である毎年旧暦一月十六日のみ花をつけるようになったという物語である。また、梶井の「桜の樹の下には」は、冒頭の「桜の樹の下には、死体が埋まっている」という一節で知られ、桜の花が美しいのは、人の死と引き換えになっていることを暗示させる小説である²³⁾。

そもそも「桜の木になろう」というのは奇怪な表題である。「桜の木になる」であるとか「桜の木になりたい」といった発想は、一般的なものとは言えない。歌手になりたい、俳優になりたい、弁護士になりたい、教師になりたい、と人は思うかもしれないが、桜の木になりたい、とは通常思わないからである。そして、「桜の木になろう」は、単に「桜の木になりたい」というよりも、強く意志的なタイトルである。たとえば、「歌手になろう」、「俳優になろう」、「弁護士になろう」、「教師になろう」といった文言であれば、年長者ですでにその職に就いている者などが、その職を目指すことを若者に薦める勧誘の言葉として了解可能である。しかし、「桜の木になろう」では、そうした勧誘の意味としては解釈することは難しい。孤独な人間が自らの意志において「なろう」とするものとして理解するほかはない。

桜の木が人の死と結びついていると考えるならば、「桜の木になろう」は、死にゆく者の意志である。それは、死する者が、自らの死の後も、生者たちの世界であるこの世界に留まりつづけたいという意志であるというよりも、自らの死を受け入れる意志であるというべきだろう。われわれが確認してきたことは、「桜の木になろう」のミュージックビデオにおいて、死者が桜の木になることが生者たちの願いであり、ドラマにおいては死にゆくクラス担任教師の意志であるとともに希望でもある。もちろん、後者は、生徒たちを見守る教師の心得を説いたものとして解釈もできる²⁴⁾。だが、ドラマ中では、この楽曲は、生徒が教師の気持ちを歌うという構成になっていたとともに、死にゆく教師への挽歌（つ

あると考えることが妥当であるだろう。仏教等においては、生前のカルマの結果、限りなく生と死を繰り返す輪廻は苦行とされ、解脱を理想とするのであるが、ここでは、まさに「桜の木」に転生することが一種の理想＝幸福として想定されている。

近代日本におけるソメイヨシノの普及とソメイヨシノへの語りについては佐藤（2005）を参照。

23) 「桜の木になろう」のミュージックビデオが発表されたとき、先に触れた歌唱シーンにおいて、後列中央の松井の席の隣に着席しているメンバー（指原莉乃）がなぜ脚を開いて座っているのかがファンの間で話題になっていたようである。これについて、「指原の足元には松井が埋まっているからだ」という説があった。これはもちろん梶井の小説を知るファンによる奇説であるが、今日、同グループのファンの間では、この「指原の脚」は製作者側の意図的なものであるということが通説となっている。その通説では、空席に注意を向けるためのものとされているが、筆者にはむしろ空席から注意を背けるような視覚上の効果をもたらしているように思われる。

24) この楽曲の詞を発想の源には、作詞者の秋元が副学長を務めていた京都造形芸術大学の卒業式において、学長が卒業生にたいして送った饞の言葉をヒントにしていると言われている。この点において、テレビドラマ作品のほうが、「桜の木になろう」の歌詞の意味世界に近いと考えられる。

まり「卒業式」とは生前葬であったのだ)ともなっていたのである。

3. 「奇跡の一本松」をめぐって

—ローカルなコンテキストと非ローカルなコンテキスト

われわれは、AKB48の楽曲「桜の木になろう」が、何らかの死生観と結びついて提示されていたことを確認した。それは二つの方法によってであった。一つには、この楽曲の付録DVDに収録されたミュージックビデオで表現されたドラマにおいてであり、もう一つはテレビドラマ「桜からの手紙」においてであった。

われわれは、AKB48主演のテレビドラマ「桜からの手紙」で、校舎の前にあり菰を巻かれた瀕死の状態の桜の木を見るとき、岩手県陸前高田市のいわゆる「奇跡の一本松」の姿を連想してしまうのではないか。「奇跡の一本松」もまた、東日本大震災の後、海水につかったことにより瀕死の状態となり、必死に延命を試みられた木である。東日本大震災において津波に襲われるものの生き残り、地元の人たちに希望を与えた一本の松の木は、その過程において、ドラマの桜の木と同様に菰を巻かれ、痛々しい姿をわれわれは目にしてきた。

この一本松は、最終的には切り倒されることになる²⁵⁾。が、話題となったのは、この松の姿を現物と同じように再現し、モニュメントとして同じ場所に設置したことだ²⁶⁾。それは今日、正式に「奇跡の一本松」という名称になっている。

しかし、この松は、はじめから「奇跡の一本松」と呼ばれていたわけではない。当初は「希望の松」などと呼ばれていたものが、次第に「奇跡の一本松」と呼ばれるようになった過程を確認することができる²⁷⁾。

この松について、マスメディアが最初に報道をしたのは、少なくとも全国的なレベルでは2011年3月24日前後とみられる²⁸⁾。NHKの震災情報のページに「希望の松」という

25) 「一本松」は、2012年9月12日から13日にかけて伐採・搬出された。

26) 陸前高田市は、モニュメントの製作費用1億5千万円を、すべて寄付により賄う計画である。その経緯については、戸羽(2011: 136-139, 2013: 152-157)にあるが、同市によせられた批判のほとんどは事実誤認によるものであったという。このモニュメントは、2013年3月6日までに現場に設置されたが、再現性に問題があったため、やり直しが行われ、同年6月8日に工事が完了した。

27) 他にこの松について「ど根性松」という言い方も存在していた。たとえば、MSN産経ニュースのパノラマ写真シリーズ「東日本大震災パノラマ」の2011年5月14日付記事「【東日本大震災パノラマ Vol. 73】 ど根性“希望の松”」(<http://photo.sankei.jp.msn.com/panorama/data/2011/0514rikuzentakata/>)には、「一本松」に巻かれていたシートに「ど根性松ノ木」とメッセージが書かれていたことに言及されている(2011年1月12日閲覧)。なお、「ど根性松」という名称は、宮城県石巻市において市街地が壊滅的な被害を受けた南浜・門脇地区において希望の象徴となった「ど根性ひまわり」(<http://gannbarouishinomaki.jimdo.com/%E3%81%93%E3%82%8C%E3%81%BE%3%81%A7%E3%81%AE%E8%A9%B3%E7%B4%B0/>)、2014年1月12日閲覧)と対照的である。

28) なお、地元の地方紙『東海新報』を発行する東海新報社のカメラマンは、3月12日に後に「奇跡の一本松」と呼ばれることになる松の姿をカメラに収めており、その写真は、東海新報社(2012: 34-35)に収録されている。

タイトルで掲載されたその動画は、遅くとも3月25日未明には掲載されていた²⁹⁾。そして、新聞紙上に掲載されたのは、2011年3月25日付『読売新聞』朝刊東京本社版31面(社会面)の記事、「奇跡の一本 名勝・高田松原」であるようだ。この記事では、一本松のカラー写真とともに、「奇跡的に1本だけ生き残った」と紹介され、「市民らは『街を復興に導く象徴だ』と、新たな希望を見いだしている」と解説を加えている。そして、「この生命力は、私たちに力を与えてくれる」という市民の言葉を紹介する³⁰⁾。

このあたりから、高田松原に「一本だけ残った」松については、テレビでも紹介されはじめ、他紙も追隨して記事にするようになる。『産経新聞』は、2011年3月30日付東京本社版22面(第2社会面)において、「東日本大震災『希望の松』1本残った」という見出しで写真とともに記事にしており、市内の57歳の男性運転手の話として、「あの津波でよく残った。地元では、不屈の精神を感じて『希望の松』と呼ぶ人もいる」と、「希望の松」という名前を取り上げた。また、『毎日新聞』は、2011年3月29日付東京本社版夕刊1面(政治面)のコラムにおいて、「1本奇跡的に残ってすくと立ち、希望の証しとして廃虚のあちこちから視線を集めているそうさ」としてこの松に言及する。

このように、高田松原の1本の松に対して全国的な注目が集まりつつある中、2011年4月2日に陸前高田市を視察したのが当時の首相菅直人であった。菅首相は、陸前高田市の災害対策本部を訪問するとともに、高田松原も視察することになる。『読売新聞』の2011年4月3日付朝刊には、「『希望の松』だという説明を受けると笑顔になり、『復興しよう』とつぶやいた」という政府関係者の話が掲載される³¹⁾。

このように、「奇跡の一本松」は、当時の報道では主として「希望の松」と言われていた。先のNHKの動画や、産経新聞の2011年3月30日付記事、読売新聞の2011年4月3日付記事以外にも、産経新聞東京本社版2011年4月6日付13面(文化面)において、東南アジアの貧困問題などを取材してきたフォトジャーナリストの活動紹介として、陸前高田市で復興支援ボランティアとして活動した彼女が撮影した写真の一つに「希望の松」というタイトルで紹介されていたし、2011年4月11日付産経新聞東京本社版17面(第3社会面)では、「東日本大震災1カ月 それぞれの奮闘 支え合い、思いは一つ」の記事の中で、陸前高田市の戸羽太市長³²⁾の話として 高田松原の残った1本の松をイラスト化して作ったワッペン「生き残った一人一人が希望の松になる」という言葉が紹介され、こ

29) http://www3.nhk.or.jp/news/jishin0311/movie/chapter_43.html (削除済)。なお、この映像およびその後ニュースで報道した際の映像は、NHKの「東日本大震災アーカイブス」には収録されていない。

30) 高田松原は、年間100万人の人々が訪れる陸前高田市を代表する観光地であるとともに陸前高田の象徴であった。陸前高田の多くの人々にとっても、松原や浜辺の散策や海水浴など思い出深い場所である。かつての高田松原については、佐々木(2011)などを参照。

31) 東北地方のブロック紙『河北新報』(本社：仙台市)がこの松の写真に掲載したのは、菅首相の陸前高田市視察を受けた2011年4月3日付朝刊であった。

32) 市長は被災地の市長としての体験を書物に綴っている(戸羽2011、2013)。

の言葉は、同日の同新聞大阪本社版 11 面（第 1 社会面）の記事では「大震災 1 カ月 泣くのは後でいい 陸前高田市長『希望の松になる』』として見出しにもなった。さらに、4 月 14 日付産経新聞東京本社版 6 面（オピニオン）では、盛岡支局長の署名入り記事で、行方不明の両親を捜していた 59 歳無職男性の話として「でも、生きて行かなきゃなんねえ。あれは希望の松だ」という言葉が紹介される。

このように、「一本松」は、3 月 25 日付の『読売新聞』の報道で、「奇跡の一本」という表現で紹介されていたものの、それに追従する報道の中で、「希望の松」という表現が主流となっていた³³⁾。そうした「一本松」が、新聞報道において「奇跡の一本松」という語で紹介されるようになるには、陸前高田の外部の人々の視線が関わっている。すなわち、『日本経済新聞』は、4 月 11 日付夕刊 14 面で、「一本松」を「陸前高田市の震災復興のシンボルになっている“奇跡の一本松”」と紹介し、岩手県大船渡農林振興センター³⁴⁾の調査で「枯れる恐れが出ていること」が報道される³⁵⁾。この記事以降、「一本松」に対する関心の焦点は、保存活動へと移り、「一本松」の保護への努力とともに次第に「奇跡の一本松」と報道され、記述されることになる。たとえば、『日本経済新聞』は 4 月 30 日付夕刊 8 面において「守れ、奇跡の一本松」と題して、「奇跡の一本松を後世まで残そう」と県内外の造園業者やボランティアが集まり、塩害対策から保存活動を行っていることが報道される。他紙と比べ「奇跡の一本松」という名称を使用することが遅れた『朝日新聞』も、2011 年 12 月には「天声人語」や「一本松」の保護活動の記事で、その語を使用するようになる。

たしかに、「希望の松」という呼び名は、陸前高田のローカルなコンテキストにおいて可能な呼び名である³⁶⁾。なぜなら、市街地が津波によって壊滅的な被害を受けた陸前高田の人々にとって、高田松原に一本残った松が希望の象徴であったからにはほかならない。陸前高田市の市長の言葉も、陸前高田でボランティア活動を行ったフォトグラファーの写真も、さまざまなマスメディアによる「一本松」の報道も、こうした陸前高田のローカルなコンテキストにおいて「希望の松」と呼んでいたのであり、ローカルなコンテキスト抜きには「希望」の意味を理解することはできない。

しかし、この陸前高田の「一本松」は、次第に非ローカルなコンテキストを帯びるよう

33) ただし、一部のテレビ局では、当初から「奇跡の松」という語で報道されていたようである。

34) 岩手県沿岸広域振興局が管轄する岩手県の機関。

35) 同文の記事は、岩手県の地方紙『岩手日報』2011 年 4 月 12 日付第 2 社会面、『産経新聞』東京本社版 4 月 12 日付 22 面（第 2 社会面）にもあり、共同通信社経由で配信されたものとみられる。

36) ただし、このローカルなコンテキストも、厳密には外在的なまなざしを内面化することによる自己認識として可能であることには留意が必要である。たとえば、震災後に「一本松」の保存に関わって何度も陸前高田に足を運んだある造園家は、「高田松原に一本だけ残っていた松の木を自分の目で発見し、鮮明に記憶している人は私の知る限り、一人もいなかった」（浦井 2012: 57-58）という。また、当初はこの松をめぐる「希望の松」という言い方も全国的に定着していたようだ。たとえば、『朝日新聞』2011 年 4 月 18 日東京本社版朝刊 18 面「朝日俳壇歌壇」欄には、三重県伊賀市の男性によって投稿された俳句に「希望の松」という表現で詠まれている。

になり、東日本大震災全体を象徴する意匠として使われるようになる。たとえば、東日本大震災を記録した本の表紙などの写真に³⁷⁾、フジニュースネットワーク (FNN) の「東日本大震災アーカイブ」³⁸⁾ のロゴデザインや 2015 年度に財務省が発行予定の東日本大震災復興事業記念貨幣のデザインに「一本松」が採用された。東日本大震災からの復興を目的として政府が設置した「復興庁」は、その看板の材料に高田松原の被災したマツが使われた。あるいは、「一本松」がモニュメントとして「再生」されるとき、その名称として正式に採用されたのは「奇跡の一本松」であるし、このモニュメントを作成するのに必要となった費用を賄うために募集した寄付活動においても、「奇跡の一本松保存募金」の名称が使用された³⁹⁾。そして、陸前高田市の震災復興計画において、「一本松」周辺の一帯には、岩手県による震災復興祈念公園を作る計画が持ち上がっている。この公園の周辺には、気仙中学校校舎、高田松原ユースホステル、道の駅高田松原「タピック 45」⁴⁰⁾、雇用促進住宅といった、陸前高田市が保存方針を打ち出している震災遺構が点在しており、そうした災害の記憶を保存する地域の中に「一本松」を位置づけようとしているのである。そして、そこには震災の記憶を保存する国のメモリアル施設を誘致する方針を打ち出しており、今回の震災の記憶を保存し犠牲者を追悼する地区になろうとしている⁴¹⁾。

ところで、この松が、「奇跡の松」と呼ばれるようになったのは、高田松原の約 7 万本の松のうち、東日本大震災の津波を受けても、ただ一本のみ生き残ったことによってである。しかしながら、この松について調べていくと、この松のみが残ったことが決して奇跡ではなく、ある程度の必然性をもっていたことがわかってくる。

まず第一に、この松について、津波前の写真が残されていた。その写真は、地元のアマチュアカメラマンが撮影していたものであり、「奇跡の一本松」一帯に渡る「しおさい橋」のたもとの説明プレートに掲載されるとともに、道の駅「タピック 45」跡前に設置された仮設の追悼施設に津波の前後の写真が掲げられている⁴²⁾。この写真からわかることは、この松は、周辺には他の松がない独立樹となっており、松林を構成する松と比べてひときわ高く、上のほうにしか枝葉がない目立つ存在であった。つまり、この松は、高田松原の

37) たとえば、朝日新聞盛岡総局 (編) (2012) の表紙カバー、扉の写真、朝日新聞社・朝日新聞出版 (2012) の裏表紙カバー写真、マガジンハウス (編) (2011) の表紙写真など。

38) FNN 東日本大震災アーカイブ <http://www.fnn-news.com/311/> (2014 年 1 月 10 日閲覧)

39) 陸前高田市「奇跡の一本松保存募金」<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/ipponmatu/ipponmatu-bokin/ipponmatu-bokin.html> (2013 年 12 月 17 日閲覧)

40) 陸前高田市およびその周辺地域の物産情報を提供する総合インフォメーションセンターであった。

41) 他に計画されている大きな震災復興祈念公園として、宮城県と石巻市による宮城県石巻市南浜地区のものを挙げることができる。

42) 同じ「一本松」の震災前後の比較写真は、タクミ印刷 (編) (2011: 94-95) に収録されている。なお、道の駅「タピック 45」前の追悼施設内に掲げられたこれら写真は、AKB48 が 2013 年 3 月 8 日に発表した復興応援ソング「掌が語ること」のミュージックビデオ (<http://www.youtube.com/watch?v=AjV8Z26yVS8>) において、2 分 53 秒付近に映り込んでいる (このミュージックビデオに掲載された被災地の光景は主として陸前高田市のものである) (2013 年 12 月 17 日閲覧)。

約7万本の松において偶然残った1本の松というよりも、初めから特別な存在であったのだ。

「奇跡の一本松」が、樹高が高く、上のほうにしか枝葉がなかったことは、津波に襲われても、枝葉のある高さまで到達することなく、幹のみで津波の力を受け止めればよかったことを意味している。また、樹高の高さは、根もそれなりに深く張っていたことが予想されるだろう⁴³⁾。この松の樹齢は、推定200年とも260年ともされていたが、切り倒された後に年輪をもとに鑑定の結果、173年であることがわかった⁴⁴⁾。枯死したのは、2011年とされているので、1838年頃に生まれた松ということになる。

ここで重要なのは、1838年という年である。高田松原は、江戸時代以降、松の植林が進んだことによって松林となったが⁴⁵⁾、1835年（天保6年）の宮城県沖地震（仙台地震、天保大津波）、1896年（明治三陸地震）、1933年の昭和三陸地震津波、1960年のチリ地震津波などをくぐりぬけている。このうち、1835年の天保大津波と1896年の明治三陸地震津波では高田松原は大きな損壊をこうむっており、その後松林が再生されている。つまり、この松は樹齢からして、1835年の天保大津波後の復旧の過程において植えられた松の一本である可能性があり、樹齢58年当時であった1896年の明治三陸津波をくぐり抜けた松であるということになる。

このことを考えるならば、「奇跡の一本松」の奇跡とは本当は次のような意味において用いられるべきであるだろう。1896年の明治三陸地震の津波は高田松原にも大きな被害がおよび、高田松原の松の多くは、この津波の後に植えられた松である言われてきた。つまり、明治三陸地震津波を超えて生き残った松が、東日本大震災前まで存在していたことが「奇跡」なのであって、東日本大震災の津波を乗り越えたことは、むしろ必然性を伴っていたことがらなのである。

ともあれ、「奇跡の一本松」が結局のところ死を宣告され、切り倒されたこと。そして「生ける屍」の如く、生前の姿をわれわれの目にさらすことになったことは何を意味するであろうか。すなわち、「奇跡の一本松」が、陸前高田で被災し生き残った人々に対して

43) 他に「一本松」だけが残った理由として、海側の高田松原ユースホステルの建物によって、津波の力が弱められた可能性が指摘されている。なお、「一本松」およびその敷地は、同ユースホステルを運営していた日本ユースホステル協会の所有物であった。なお、「一本松」の高さは約28メートルである。

44) 2013年2月27日の陸前高田市による記者会見発表、同日または翌日付の各社の新聞記事による。

45) 東日本大震災によって明らかにされたことの一つとして、時に伝統的な日本の景観ともされてきた白砂青松が、江戸時代以降の「創られた伝統」であり、人工的な植林によって達成されてあるということだ。このことは、震災において大きな損壊を被った各地の松原について、「元通り」の白砂青松の景観を取り戻そうとする立場（たとえば遠山（2013））に対して、より津波に強い広葉樹を海岸線に植えようというグループを成立させる基となった。その代表的なものとして、植物学者宮脇昭が提唱する理論（宮脇2011, 2012）に基づいて実践を行っている、瓦礫を活かす森の長城プロジェクト（<http://greatforestwall.com/>、2014年1月12日閲覧）やいのちを守る森の防潮堤推進東北協議会（<http://morinobouchoutei.com/>、2014年1月12日閲覧）などを挙げることができる。

希望を与える生者を象徴する存在から、被災し亡くなった死者たちを象徴する存在へと置き換わったことである⁴⁶⁾。

陸前高田市は、岩手県の自治体の中で最も多い1,773名が、東日本大震災で死亡あるいは行方不明となっており、これは他県と合わせても宮城県石巻市の3,946名に次ぐものである⁴⁷⁾。2010年の国勢調査における人口との比較で見ても、宮城県女川町の(8.7%)、岩手県大槌町(8.1%)に次ぐ、7.6%を記録している⁴⁸⁾。広田湾の奥、気仙川の河口近くの沖積平野に開けた陸前高田の地は、海岸線から市街地までは1キロメートル程度離れており、天保大津波、明治三陸地震津波でといったこれまでの大きな津波においても、それほど大きな被害は出してはこなかった。陸前高田の人々は、それを高田松原が守ってくれたと信じてきた。陸前高田にとって、津波での災害はその危険性が指摘されていたものの、不意打ちに近いものであり、津波災害に対する危機感が弱かったことは、市街地だけでも少なくとも1,000名を超える人の命が失われる結果を招いた。広田湾に注ぐ気仙川沿いは内陸数キロメートルにわたって浸水区域となっており、陸前高田の市街地を含め甚大な被害を被った地域として、東日本大震災を象徴する存在となっている。大槌町、山田町(以上、岩手県)、南三陸町、女川町(以上、宮城県)などと並び、市街地が津波によって壊滅し、瓦礫が撤去された後は、建物の土台だけが残っているという、震災後の特有の景観を構成している。

筆者が、陸前高田を訪問した際、どこかの宗教団体が「奇跡の一本松」を望む川を挟んだ向かい側で祈りをささげていた。この行為は、おそらく生者たちの幸福を祈念するものではなく、死者たちの冥福を祈るものであっただろう。そうであるならば、「奇跡の一本松」は、すでに生者たちの象徴ではなく、死者たちを表象するものとなっている。今日、われわれが陸前高田において、この再生された松を見ると、人々が想起するのは、この松が、千人を超える人々の死に立ち会ったことであるだろうか。いやむしろ、枯死してしまったこの松こそが、死者の代表になっているのである。

だが、この松が、すでに死んでおり再生されたものであることは、多くの人々が知っているところである。だから、2013年3月に綺麗に再生されたとき、「奇跡の一本松」を見に来た人々は、「奇跡の一本松」から少し離れたところにあった、もう一本の松のほうに目を奪われていた。あるブロガーは、次のように書き残している⁴⁹⁾。

46) これは、モニュメントとなった「奇跡の一本松」の前には、献花台が設置されたことから明らかであるだろう。構想されている震災復興祈念公園が、まさに「祈念」する施設であることにもこのことは表れているだろう。

47) 岩手・宮城・福島各県の発表した資料に基づく。

48) いそべさとし「東日本大震災における死者・行方不明者数及びその率(県別および市町村別) 2013(平成25)年3月11日(月)現在(2年経過)」(<http://www.isobesatoshi.com/data/sisyaeastjapan.html>)を参考にした(2013年12月17日閲覧)。

49) hitomi「陸前高田・大船渡 セキュリテ被災地応援フェンドツアー(1)『一夜一夜にひとみ頃』 2013年4月23日付 <http://fine.ap.teacup.com/1yo1yo2/2762.html> (2013年12月17日閲覧)。なお、

現地に行った方は皆さんご存じのことですが、高田松原で残った松の木は実は二本ありますね。全く話題にしてもらえないもう一本の木、ちゃんと名前が付いているんですって。

ちよろ松

今年見たときも、ちゃんとちよろ松ありました。一本松があるから、ちよろ松が枯死していたら保存はしないでしょが、いつまで会えるかな。

この松は、奇跡の一本松から、300メートルくらい東方の高田松原の砂洲の中にあっただ。松原の松が、津波によってなぎ倒されたのに対して、この松だけが枝葉は奪われるも直立していた。この松が、震災直後からこの状態であったことは、いくつかの記録写真によって確認することができる。

奇跡の一本松を訪ねる人は、現地において、レプリカとなった「奇跡の一本松」よりも、この松のほうに生々しさ（＝死気）を感じる。枝葉を奪われたその姿に、その生が長くはない（というか、実際にはおそらくすでに死んでいるのであろう）ことを知りつつ、津波の被害の激しさを想起する。震災の生々しい記憶は、「奇跡の一本松」よりも、無名の「ちよろ松」のほうに感じるのである。「ちよろ松」は、「奇跡の一本松」に対しては「偽物」であるだろう。しかし、震災の記憶を想起させるという点においては、「奇跡の一本松」よりも「本物」に近いのである⁵⁰⁾。

現在、東日本大震災の各地の被災地で、震災遺構を保存する取り組みが進められている。とはいえ、ほとんどの被災の痕跡はすでに片づけられており、いくつかの象徴的な意味をもつ建物などが、保存対象として候補にあがったが、そのいくつかは撤去されてしま

「陸前高田被災地語り部」くぎこ屋」は、facebookの2013年6月10日付記事 (<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.598679383489630.1073741854.556966167660952&type=3>) において、この松を「ど根性松」として紹介している（2014年1月12日閲覧）。なおこの松はすでに撤去され現存しない。

50) こうした「再生」された「奇跡の一本松」の偽物性は、第二の「奇跡の一本松」を出現させる背景となっていると思われる。すなわち、福島県南相馬市鹿島区右田浜には、サーフィンの国際大会も開かれる浜、海水浴場、キャンプ場と数万本からなる松林が構成されていたが、震災の際、そのほとんどが流されることになった。海岸には、十数本の松が残ったが、枯死せず生き残っている松は一本だけとの樹木医の判定を受け、その松を「奇跡の一本松」と名付けて「かしまの一本松を守る会」が2013年9月に結成されたのである（福島県の地方紙の福島民報の2013年11月25日の記事 (<http://www.minpo.jp/news/detail/2013092211033>) (削除済)、アーカイブサイト (<http://archive.is/XUSmw>) により確認、2014年1月12日閲覧)。なお、右田浜の松林について南相馬市は再生の方針を打ち出しているが、この「奇跡の一本松」からわずか約300メートルの地点には「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」による植樹地があり、2013年10月6日に「鎮魂の森 福島県南相馬市植樹祭」により植樹がなされた。この植樹祭には、AKB48のメンバー3名も参加している (<http://greatforestwall.com/p87.html>、2014年1月12日閲覧)。

今回の震災では、東北地方の太平洋岸の砂浜にあった松林の多くが大きな被害を受けたが、津波によって倒れたり、塩害で枯れたりして僅か何本かを残すのみになっている光景は、高田松原に限らず各地で見かけることができる。常緑針葉樹であり四季を通じて同じ姿である松は、盆栽としても愛好されるように、一般的に独立樹となると特に目立つ存在である。海岸に限らず津波被災地に1本だけ残った樹木は目立つ存在であり、高田松原の「一本松」と似たような光景は、被災地の何か所かで目にすることができる。また、宮城県気仙沼市の岩井崎には、津波に被災した松が「龍」の形に見えることから、「龍の松」として地域のシンボルとなった事例もある。

った。だが、震災の遺構を残せば、震災の記憶が保存されるというわけではないことも事実である。遺構は確かに震災の記憶を呼び起こすペグ（杭）にはなるかもしれないが、震災の記憶の風化は避けられない。それぞれの遺構は、それらが可能な範囲内において震災を伝え、被災地であった地域の景観の一部に取り込まれていくであろう。建物の土台だけ残っている市街地は、形態としては、ダム建設によって、湖底に沈むことになる地域において、建物が撤去された様態、たとえば八ツ場ダムに沈む川原湯（群馬県長野原町）や、夕張スーパーバロダムに沈むかつての炭鉱街・大夕張（北海道夕張市）と共通するような光景である。陸前高田の場合、一つの街が失われた経験の記憶も、建物の基礎も撤去され、嵩上げ用の土砂が運び込まれることによって、かなりの部分が上書きされていくのである。

われわれが確認したことは、高田松原に残された一本の松をめぐる、ローカルなコンテキストにおける呼び名である「希望の松」が、非ローカルあるいはナショナルなコンテキストにおいて「奇跡の一本松」に置き換わったことであった。しかし、今日においても注意深く陸前高田を観察すれば、ローカルなコンテキストをもった「希望の松」という呼び名が消失してしまっただけではなく、むしろ「希望の松」の非ローカル化、ナショナル化と対抗するように、「希望の松」の名が保存されている様子もみることができる。たとえば、陸前高田市観光物産協会は、「一本松」に残された松ぼっくりから採取した種を芽吹かせて生育した苗木の写真をポスター⁵¹⁾に採用し、それに「希望をのせて」というコピーを載せている。同協会が紹介している陸前高田市内の各社が作成した「復興グッズ」には、「一本松」をデザインしているものは数多くあるが、単に「一本松」か「希望の松」「希望の一本松」と記されており、「奇跡の一本松」と記されているものはひとつもない⁵²⁾。さらに、震災後に公募によりデザインが決定した陸前高田市のマスコットキャラクター「たかたのゆめちゃん」⁵³⁾に2013年1月4日に市長から交付された「特別住民票」の住所欄には、「希望の一本松ノ上」とある⁵⁴⁾。日本郵便東北支社が、2013年3月に発売し

51) 陸前高田市観光物産協会のポスター <http://www.3riku.jp/kanko/top-poster.pdf> (2014年1月10日閲覧)

52) 陸前高田市観光物産協会 <http://www.3riku.jp/kanko/>、同復興支援グッズ <http://www.3riku.jp/kanko/fukkou-goods/fukkou-goods.html> (2013年12月17日閲覧)。ただし、復興支援グッズの中には、震災直後のまだ「奇跡の一本松」という呼称が定着する前から在るものもある。筆者が現地で確認していることは、「一本松」をモチーフとした土産品やグッズは数多くあれど、「奇跡の一本松」の名を冠する土産物は、クッキー、煎餅といった菓子類、2、3種のほか、写真パネルや絵葉書といった外来者向けのものがいくつかあるのみである。なお、陸前高田地域振興(株)の販売する「奇跡の一本松たまごせんべい」は、「奇跡の一本松」と「希望の一本松」の二種類の図柄の煎餅が入っている。

53) たかたのゆめちゃん公式サイト <http://www.yume-chara.com/index.html> (2013年12月17日閲覧)。いわゆる「ゆるキャラ」の一つであり、「ゆるキャラグランプリ2013」(主催:ゆるキャラグランプリ実行委員会)において全国1,580体中、岩手県1位、総合56位を獲得している (<http://www2.yurugp.jp/ranking/>、2014年1月10日閲覧)。

54) 陸前高田市の公式 Facebook の2013年1月4日付の記事「たかたのゆめちゃんに特別住民票を交付」(<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.195170567287473.45535.124322137705650&type=1>)

たオリジナル・フレーム切手セットは、「希望の一本松～奇跡から希望へ」と名付けられており⁵⁵⁾、非ローカルあるいはナショナルなコンテキストにおける「奇跡の一本松」の名称を置き換えるかの如く名付けられている。こうしたところには、ローカルなコンテキストを強く押し出して、ナショナルなコンテキストに置き換えて行こうとするような陸前高田の人々の意志を読み取ることができるかもしれない。

4. 桜と東日本大震災、そしてハナミズキの道へ

東日本大震災以後、桜は次のような点において注目されてきた。東日本大震災後、約1カ月経って被災地にも春の訪れを告げる桜の花が開花する。その中には、東日本大震災において津波の被害を受けながらも、咲いた桜が注目された。そのとき、ようやく少し落ち着いてきていた被災地において、咲いた桜こそ、被災した人々の希望の象徴であり、被災して「色の無い」世界を生きてきた人々にとって、桜の花は生気を取り戻すきっかけであり、生の象徴として機能しており、被災地に咲いた桜の写真集（玄侑・青柳 2013）も出版されている。

そうした東日本大震災の被災地に桜の木を植えるプロジェクトが、震災後、被災地内外において乱立することになった。筆者が確認している限り、十数種類以上のものがあるが⁵⁶⁾、そうしたプロジェクトは大きく分けて二種類ある。一つは被災した地域、あるいは津波の被害を受けた地域そのものに桜を植えようというプロジェクトであり、もう一つは、津波で浸水した区域と非浸水区域の境界に桜を植えて行こうとするプロジェクトであ

の記事、および『三陸復興新聞』2013年1月8日付の記事「陸前高田のゆるキャラ『ゆめちゃん』、住所は『奇跡の一本松の上』」(<http://sanriku.keizai.biz/headline/572/>)による(2013年12月17日閲覧)。

55) 日本郵便東北支社 2013年3月4日付プレスリリース「オリジナル フレーム切手セット『希望の一本松～奇跡から希望へ～』の販売開始と贈呈式の開催について」(https://www.post.japanpost.jp/notification/pressrelease/2013/02_tohoku/0304_01_01.pdf、2013年12月17日閲覧)。

56) 本文で紹介するもの以外を順不同で挙げるとすれば、桜 on プロジェクト(特定非営利活動法人 桜 on プロジェクト、東京都目黒区、<http://sakura-on-project.jp/SonPJ/top.html>)、さくらプロジェクト 3.11(一般社団法人 さくらプロジェクト 3.11、東京都中央区、<http://sakura-p.org/>)、KIBOU311 SAKURA PROJECTS(一般社団法人 LOOM NIPPON、東京都、<http://loom.or.jp/activities01.html>)、桜 3.11 学校プロジェクト(桜 3.11 プロジェクト実行委員会、仙台市、<http://sakura-art311.net/>)、石巻桜植樹さくら咲くプロジェクト(NGO eyepeace、石巻市、<http://sakura-saku311.jimdo.com/>)、Present Tree さくら守くらぶ 311(特定非営利活動法人 環境リレーションズ研究所、東京都千代田区、<http://www.presenttree.jp/collabo/sakuramori/>)、東北さくらライブプロジェクト(<http://www.sakulalala.org/>)、心に花を*桜咲かそうプロジェクト(ココハナ実行委員会、<http://www.kokohana.org/>)、手あわせ桜プロジェクト(一般社団法人 てあわせ、一関市、<http://en.sizentai.net/>)、SAKURA+PROJECT(<http://sakura-plus.jp/>)、咲かせよう、東北!桜プロジェクト(一般社団法人 チョコレボ・インターナショナル、東京都渋谷区、<http://choco-revo.net/sakura-project/>)、桜二万本植樹プロジェクト 東日本大震災慰霊「奥のさくら路」(「奥のさくら路」実行委員会準備会、東京都、<http://www.sakura-tv.com/okunosakuraji/>)、ふくしま浜街道・桜プロジェクト(「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」実行委員会、福島県広野町、<http://www.happyroad.info/>)などがある(2013年12月17日閲覧)。

る⁵⁷⁾。

後者のタイプのプロジェクトとして、特定非営利活動法人（NPO 法人）さくら並木ネットワーク（東京都世田谷区）による「さくら並木プロジェクト」⁵⁸⁾と、特定非営利活動法人桜ライン 311（岩手県陸前高田市）による、「桜ライン 311」プロジェクト⁵⁹⁾を挙げることができる。「さくら並木プロジェクト」が、東日本大震災における津波の被災域全体を対象として、津波の最高到達地点に、桜を植樹するというプロジェクトであるのに対して、「桜ライン 311」は、陸前高田市に特化している。すなわち、陸前高田市内約 170km に渡る津波の到達ラインに 10m おきに 17,000 本の桜を植樹するプロジェクトであり、2013 年 12 月までに 159 ケ所、647 本の植樹を終えている⁶⁰⁾。両プロジェクトの趣旨は共通している。すなわち、津波の到達地点に桜の木を植樹することによって、後世の人々に、津波の危険性と、桜の木より上に避難するよう伝承することである。たとえば、「さくら並木プロジェクト」においては、ホームページにおいてその趣旨を次のように説明している⁶¹⁾。

この大津波について世代を超え代々語り継ぎ、被害を決して風化させない取り組みが必要で
す。将来予測される大津波の際「避難」の目標となって、住民の方々を守る役割を果たしてく
れることを願い、今回の津波到達最終地点に桜を植え記憶に残る桜並木を造成することに致し
ました。

しかし、これらのプロジェクトに対して若干の疑問がないわけではない。今日、東日本
大震災における津波震災区域は、主要幹線道路などでは、道路標識として明示化されてい
る。すなわち、国道 45 号線などでは、「ここから過去の津波浸水区域」という表示がなさ
れ、浸水区域内においては、「前方〇メートル、後方〇メートル」と表示される。あるい
は、浸水区域を明示化したいのなら、たとえば境界に何か目印を設置したり線を引いたり
などいろいろな手立てがあるだろう。このプロジェクトで境界として用いられる桜の木
は、浸水区域とそうでない区域とを分かつには見えづらい。桜の木は、松や杉のような特

57) こうしたプロジェクトの嚆矢として、昭和三陸地震津波後の岩手県唐丹村（現釜石市唐丹町）に
おいて、復興祈念と昭和天皇の皇太子（現天皇）誕生を祝して、桜（ソメイヨシノ）の植樹を行った
事例（1934 年）を位置づけることができるかもしれない。特に本郷地区は昭和三陸地震津波後に高
台への集団移転が行われており、移転地最下部の津波が到達しなかった地点に作った新道沿いに植え
られた桜の木は、桜の名所の一つとして知られる桜並木となり、今回の震災においても大きな損壊を
受けることはなかった。なお、本郷海岸の防風林の松林でも、今回の震災で大きな損壊を受けたが、
辛うじて一本だけ残り、「唐丹町の一本松」となっているがあまり知られていない。

58) 桜並木プロジェクト <http://sakuranamiki.jp.org/>（2013 年 12 月 17 日閲覧）

59) 桜ライン 311 <http://www.sakura-line311.org/>（2013 年 12 月 17 日閲覧）

60) 桜ライン 311 では、植樹する桜について、①塩害に強い品種、②冷害に強い品種、③その他病虫害
に強い品種を選定して植栽を行っており、具体的には、ベニシダレ、ベニヤマザクラ（オオヤマザ
クラ）、オオシマザクラを中心としている（<http://www.sakura-line311.org/plant>、2014 年 1 月 12 日
閲覧）。

61) さくら並木プロジェクト「さくら並木プロジェクトとは」[http://sakuranamiki.jp.org/cherry_](http://sakuranamiki.jp.org/cherry_project)
project（2013 年 12 月 17 日閲覧）

徴があるわけでもなく、樹木に詳しくない人たちにとっては、花が咲いておらず特に緑の深い季節には、他のさまざまな樹木に埋没してしまって、注意しなければ桜と気づかないことも多いだろう。もちろん、桜の咲く季節には、それによって津波した領域を印象づけることができるかもしれない。しかし、桜の花が咲いているのは一年のうちのわずか十数日であって、それでは日常の用には達しないのではないのか。

われわれは、こうしたプロジェクトにおいて、桜の木は生と死と分かつ象徴的な意味において用いられているであろうことを指摘せざるを得ない。つまり、桜は死者とをつなぐメディアであるとともに、桜は徹底してこのことを忘却するものともなっているのではないのか。死者とを繋ぐメディアであることは平素は忘れてしまい、一年に一度、桜が咲くところにだけ確認すればよい。すなわち、桜の咲く季節になると、あの津波のことを思い出すと。でも、そのとき、そうした桜は、一見、生者の側から死者との繋がりをつけるものであるかの如く位置づけられるのだが、実際のところは逆になる可能性がある。なぜなら、植えた桜を見ると、海側から山側に植えられた桜を見るとするならば、死者の領域において生者の領域を見る。それは、後世の人たちに、あの桜の木のところまで行けば、生き残ることができることを伝えるとともに、生への徹底した執着と死への徹底した拒否の姿勢がそこにあるように思われるのである⁶²⁾。

これらのプロジェクトにおいて、桜の木が亡くなった人々の生まれ変わりであるという思想がどの程度意識されているのかは定かではない。死に対して、美しい桜の花で追悼しようという素朴な思いが、そうしたプロジェクトを成り立たせていることも事実であるだろう。だが、われわれは、やはり桜の木に対して死を意識せざるを得ないのではないのか⁶³⁾。

桜の木には、ジンメル「橋と扉」(Simmel 1909=1999)で言うところの「扉」である。たしかに、桜の木によって、われわれは此岸である生者の世界と、彼岸である死者の世界とが結ばれている。しかし、桜の木は、その存在によって、生者の世界と死者の世界との交流を閉ざすものにもなりうる。すなわち海側から津波到達地点に植えられた桜をまなざすとき、それは生に対する欲望の肯定であることを通して、死者たちを忘却するものでもあるからだ。だから、死者たちを忘却しないためには、山側から桜並木と海側を眺め

62) もちろん、いつもいつも思い出すのではなく、忘却することも重要であるだろう。ただ、「死の社会学」は、さまざまな災害や事故等において忘却できない人々の存在を明るみにしてきた。そうした人々にとっては、いわば「忘却を強制されない自由」「死者とともに生きる権利」が重要であることは指摘されてきたところである。

63) たとえば、名古屋から金沢まで「太平洋と日本海を桜でつなごう」と桜の木を植え続けた国鉄バス車掌の物語は、NHKのドキュメンタリーをもとに中村(編)(1987)が出版され、1987年から91年まで中学校国語教科書(光村出版)でも取り上げられた。1994年にはこれを題材にした映画「さくら」(監督:神山征二郎)が公開され、2009年には「読売テレビ開局50年記念ドラマ」としてテレビドラマ「さくら道」が日本テレビ系列で放送されている。今日、われわれがこれらの桜を見たり、これを題材とした作品を鑑賞したりするとき、若くして亡くなった桜を植えた国鉄バスの車掌を思い起こし、彼を追悼する行為ともなっていることに気づかれよう。

るか、津波到達地点＝桜並木のライン上に立って、海側を眺めなければならないのではないか。

*

陸前高田市では、現在、震災復興計画が策定されている。それによれば、津波により浸水した市街地については、標高 10 メートル程度まで嵩上げし、その上に新市街地が築かれることになっている。そうした新市街地を縦断し、海沿いの高田松原と市街地の後背にある高台とをつなぐ道路として幅員 25 メートルの「復興シンボルロード」が計画されている⁶⁴⁾。

この「復興シンボルロード」に、街路樹として「ハナミズキ」を植えようと提案している市民グループ「陸前高田『ハナミズキのみち』の会」⁶⁵⁾が 2013 年 11 月に陸前高田市に設立された。この会の代表者は、震災において息子を亡くした女性である。当時 25 歳であった彼女の息子は、避難してくる住民への対応のため、高田市民会館に出かけており、同市民会館で津波に呑み込まれた。

そうした息子に対する想いは、絵本の執筆という形をとって、2013 年に出版された(浅沼・黒井 2013)⁶⁶⁾。そこでは、男の子を主人公する形をとって、家族の思い出がつづられている。そして、津波で亡くなった男の子が語る形式をとって、息子を失って泣く母親に次のように語りかける(浅沼・黒井 2013: 22-25)⁶⁷⁾。

ぼくが 大すぎだった ハナミズキの木を、たくさんたくさんうえてね。

津波が来たとき、みんなが あんぜんなところへ にげる目じるしに、ハナミズキのみちをつくってね。

町の人たちが もう二度と 津波で かなしむことが ないように、ぼくは 木になったり花になって みんなを まもっていきたいんだ。

ここでもハナミズキの木は、死者の生まれ変わりとして位置づけられている。しかし、桜並木が死者の世界と生者の世界との境界線であったのに対し、ハナミズキの道は、死者の世界と生者の世界との懸け橋になっている。「なぜハナミズキなのか」という問いに対して、同会はその理由の一つとして、ハナミズキの花言葉である「私の想いを受けて下さ

64) 陸前高田市復興計画 <http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/fukkou-keikaku/fukkou-keikaku.html> (2013 年 12 月 17 日閲覧)

65) 陸前高田「ハナミズキのみち」の会 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hanamizukinomichinoHui> (2013 年 1 月 10 日閲覧)

66) 絵本の執筆経緯については、NHKのニュースウォッチ9で2013年3月14日に紹介された(「息子の思い伝えたい 母親が描く絵本」<http://www9.nhk.or.jp/nw9/marugoto/2013/03/0314.html>、2014年1月12日閲覧)。なお、「一本松」を題材とした絵本等はいくつかある。ながた(2011)、のほら(2013)、ありがとうくぜんたかたプロジェクト(2013)、児童文学としてさわ(2013)。

67) この絵本の著者は、「ある日、息子の声が、わたしの耳にはっきりときこえてきたのです」と説明している(浅沼・黒井 2013: 32)。

い」と「返礼」を挙げている⁶⁸⁾。そして、こうした考えをもつハナミズキの花の贈り物は、「愛する人」へのものという意味をもっている。つまり、ハナミズキを植えることが、死者への贈り物であるとともに、ハナミズキの道によって津波の害から逃れることができるならば、それは死者からの贈り物であるということである。つまり、ハナミズキの道は、生者の世界と死者の世界との往還関係を表象するものであるのだ⁶⁹⁾。

東日本大震災以後、「絆」というキーワードをわれわれは多く目にしてきた。生者たちの連帯を、個人化が進展し、もう共同体の再生などほとんど不可能な中で、その〈夢〉を見続けようとする空虚な言説⁷⁰⁾は、東日本大震災の被災地においても時折目にする。そこで、顕著であることは、都市化した地域ほど安易に使用されることであり、激甚被災地においてはあまり目につくことがない。おそらく、陸前高田をはじめ、市街地が壊滅的な被害を被った地域において、「絆」とはすなわち死者との絆を意味することになるからと思われる⁷¹⁾。

68) 同会による2013年11月付文書『「陸前高田「ハナミズキのみち」の会』設立のご挨拶と賛同書へのお願い～復興陸前高田シンボルロードに『ハナミズキの植樹』の実現を～』。

なお、ハナミズキを選んだ経緯と上述以外の理由について同会の代表の語るところを簡潔にまとめれば次のようになる（インタビュー取材に基づく）。

ハナミズキの近接種であり在来種であるヤマボウシには、一般的には白い花（ミズキ科の植物は、一般に「花卉」と思われているのは植物学的には総苞片であり、その中心部分のみが花であるのだが、便宜上全体を「花」と記す）をつけるが、赤い花をつけるベニヤマボウシという品種がある。実は、震災前の国道340号線（「奇跡の一本松」の近くから内陸に伸びる国道）には、街路樹としてヤマボウシとベニヤマボウシが交互に植えられており、綺麗に咲いていた記憶があり、「ハナミズキのみち」のイメージの基となった。街路樹としてこれらを交互に植えるのは、この例や近隣の他所にも見られるので、別の花がよいのではないかと考えた。また、この地域では桜は4月に咲き、（ベニ）ヤマボウシは6月に咲くが、ハナミズキはその間の5月のちょうど母の日あたりに咲く。ハナミズキの植樹例は、一関や気仙沼にあり、陸前高田が採用するとすると「北限」となると目される。植樹するハナミズキの品種の有力な候補として、ベニヤマボウシと掛け合わせた品種を有力な候補の一つに考えているが、ベニヤマボウシは、陸前高田の氷上山に自生していたものがあり、土地との関わりがある。

69) 桜とハナミズキ（アメリカヤマボウシ）、この二つの花が、日本とアメリカとの親善関係を表象するものであることはよく知られている。1909年に当時の東京市長・尾崎行雄がアメリカに桜の苗木を贈ったその返礼として贈られたのが日本におけるハナミズキの始まりであるとされている。アメリカに送った桜は、首都ワシントンD.C.のポトマック河岸の桜並木を形成していったのに対して、アメリカから送られたハナミズキは、戦時中に敵国を象徴する花木として除去の対象となり、本格的に日本に定着するのは戦後になってからのことである。

なお、2009～12年の民主党政権の首相としてはじめて訪米した野田佳彦首相に対し、2012年4月30日にアメリカ合衆国のヒラリー・クリントン国務長官は、「友好の木—ハナミズキ・イニシアチブ」を発表した。これは、1912年にはじめて日本にハナミズキの苗木を贈ってから100年になるのを記念して、アメリカ国務省と日米交流財団によって、米国のハナミズキ3,000本を日本に贈るものであり、そこでは植樹対象地として東京都内と東日本大震災の被災地が対象になっていた。なお、贈られたハナミズキは、日本在来種ヤマボウシを交配して改良された品種（一般にこの種のもは「ハイブリッドハナミズキ」と呼ばれる）となった。

70) そうした言説は、何人かの論者によって厳しく批判されてきた。

71) だが、陸前高田の場合、次のような特殊性も考え合わせなければならぬ。「一本松」が注目された結果、陸前高田は全国に知られるようになり、海外にも紹介された。「一本松」は、三陸沿岸の市制を施行した町（都市）のうち、おそらく最も知名度の低かったであろう同市を一躍、有名にしたのである。そうした、陸前高田へのまなざしは、多くの人々から陸前高田の被災と復興に関心をもたれるきっかけとなり、ボランティアをはじめ様々な人々から支援や助力を得る基となった。「絆」とは陸前高田において、そうした全国の（あるいは世界中の）人々との繋がりを意味している

陸前高田において、復興グッズとして販売されている「一本松」の写真に「心でつなぐ陸前高田の絆」という語を入れたクリアファイル（タクミ印刷、300円）は、一見、生者たちの連帯を意味するようにも見える。しかし、反対面にかつての高田松原の写真を入れるその商品は、「絆」という言葉が過去との繋がりを意味し、それは死者との繋がりを表す言葉のようにも思えてくる。また、子どもたちの権利、すなわち紛争や飢餓から子どもたちを守ることを目的とした世界的な非政府組織（NGO）の日本法人であるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが後援し、岩手県陸前高田市に作られた「子どもまちづくりクラブ」は、「絆～Save the hope TAKATA～」(通称：絆クラブ)と名付けられている。Save the hopeは、もちろん主催団体であるSave the childrenに由来するであろうが、この名称は子どもたちを希望と等価なところに位置づけるものである。だが、希望を救う／守るのは、子どもたちがというよりも陸前高田の人々（大人）がである。だから、この名称は、大人たちにとって子どもたちは未来の希望であるとともに、まだ生まれてきていない未来の子供たちは、此岸には居ないことを考えあわせるならば、希望を救い出すところの異界（死の街＝死の世界）との繋がりがこそ重要であることを訴えているかのようである⁷²⁾。

こうして考えてみると、陸前高田市のオリジナルキャラクター「たかたのゆめちゃん」の住所が、「希望の松ノ上」となっていた意味も明らかであるだろう。このキャラクターは、文字通り「一本松」の上に住んでいるという設定で絵本には描かれる（赤瀬 2013: 10-13）が、陸前高田の高台から見ると、一本松の上方のその先に、陸前高田の人々の希望が所在していると解釈されるべきであり、それはまた死者の世界である⁷³⁾。陸前高田の人たちにとって、そうした死者との絆こそが人々の希望であるのだ⁷⁴⁾。

5. おわりに

奇しくもドラマ「桜からの手紙」の放映を前にした宣伝活動において、このドラマのキーワードとして「絆」という言葉を用いていた⁷⁵⁾。おそらく時流に乗ったキーワードとし

のでもある。

72) 陸前高田市の高台にある仮設商店街「高田大隅つどいの丘商店街」に、2012年9月9日に設置されたモニュメント「ミニあかりの木」(幅約3メートル、高さ約4メートル)は、同クラブによって、陸前高田を明るく照らし市民が集えるシンボルとして、動植物をあしらったパーツで四季をイメージして作られたものである。そこにはいくつかのパーツに子どもたちによる説明が書かれているが、桜の花びらをデザインしたパーツに書かれていたのは、製作者についての説明と「絆」という文字であった。

73) 実際の「復興シンボルロード」の海側の終点は、「一本松」と数百メートル離れた地点であるのだが、われわれは「ハナミズキの道」は、「希望の松」の上に続いていると想像することができるだろう。

74) 筆者は、社会学がその歴史的起源から「病とともにあること」を指摘しており(周藤 2001)、〈病〉を社会学の方法とし、「病とともにあること社会学」を「臨床社会学」として提唱している。

て用いられたのであろうが、注目すべきであるのは、この「絆」というのは、教師との絆として説明されていたことである。つまり、ドラマにおいて亡くなったクラス担任教師を通して描かれる「死者との絆」であったのだ。

われわれは、東日本大震災後の日本において、AKB48 が、繰り返し被災地を訪問して、ライブ活動を行っていることを知っているだろう。もっとも、AKB48 は、多人数グループであるから、数名のメンバーを交代で被災地に訪問させることが比較的容易とはいえ、現在まで毎月欠かさず被災地での活動を行っていることは特筆に値するだろう。AKB48 グループは、震災後一早く、東日本大震災の被災者に対して5億円を寄付⁷⁶⁾することを表明し、ニュースにも取り上げられた。

AKB48 が東日本大震災の直前に、死生観を滲ませる作品を公開していたことは、偶然であるだろう。震災は予期せぬ出来事として、結果としてむしろAKB48 に対する世間的な関心をより加熱させる方向に展開させたように思われる。AKB48 が本格的に社会の注目を集め、メンバーの人気投票である「総選挙」が「社会現象」とされるに至ったのは、まさに震災直後の2011年のことであった。そうした意味においては、楽曲「桜の木になろう」と東日本大震災は、AKB48 プロジェクトにおける「消滅する媒介者」(Jameson 1973)であるのかもしれない。

不慮の死、若すぎる死、無念の死、そうした現世において思いを残すような死は、われわれの社会を深く傷つける。その死によって傷ついているのは、死者本人ではなく、生者であるわれわれのほうである。

文献

- 赤瀬小梅 2013『頑張れ！ たかたのゆめちゃん vol. 1』陸前高田市支援連絡協議会 AidTAKATA.
 ありがとうりくぜんたかたプロジェクト 2011『まつぼっくりちゃん ありがとうをちからに』(絵本) ありがとうりくぜんたかた.
 朝日新聞盛岡総局(編)2012『負けないで3・11 その時そして』ツーワンライブ出版.
 朝日新聞社・朝日新聞出版 2012『震災1年全記録：大津波、原発事故、復興への歩み』朝日新聞出版.
 浅沼ミキ子(文)・黒井健(絵)2013『ハナミズキのみち』金の星社.
 玄侑宗久(文)・青柳健二(写真)2013『花咲う——被災地の櫻と復興』廣済堂出版.
 マガジンハウス(編)2011『復活への記憶：東北ふるさとのアルバム』マガジンハウス.
 宮脇昭 2011『瓦礫を活かす「森の防波堤」が命を守る——植樹による復興・防災の緊急提言』学研新書.
 —— 2012『「森の長城」が日本を救う——列島の海岸線を「いのちの森」でつなごう!』河出書房新社.
 ながたえり 2011『奇跡の一本松——大津波をのりこえて』(絵本) 汐文社.

75) このことは、現在も同番組のサイトで確認することができる(2013年12月17日閲覧)。

76) AKB48 からの寄付金は、チャリティイベントや、震災復興応援ソングのCDの販売利益の一部、ファンからの義援金を含め、2013年3月現在で、13億円超に達した(<http://www.akb48.co.jp/darekanotameni/>、2013年12月17日閲覧)。

- 中村儀朋（編）1987 『さくら道——国鉄バス車掌佐藤良二さんの生涯』 風媒社. → 1994 『さくら道——太平洋と日本海を桜で結ぼう』（新装版）風媒社.
- のはらあい 2012 『きせきの一本松』（絵本）河出書房新社.
- 三陸新報社（編）2013 『鎮魂 3・11 ——平成三陸大津波 II そして、地域は』 出版文化社.
- 佐々木松男 2011 『高田松原ものがたり——消えた高田松原』 高田活版.
- さわまゆみ 2013 『ふるさととはたからもの——ぼくの陸前高田』（児童文学）文芸社.
- タクミ印刷（編）2011 『未来へ伝えたい陸前高田』 タクミ印刷.
- 戸羽太 2011 『被災地の本当の話をしよう——陸前高田市長が綴るあの日とこれから』 ワニブックス「PLUS」新書.
- 2013 『がんばっぺし！ぺしぺしぺし！——陸前高田市長が綴る“復興を支える仲間”との732日』 大和出版.
- 遠山益 2013 『松林が命を守る——高田松原の再生を願う』 第三文明社.
- 涌井雅之 2012 『奇跡と希望の松——なぜ一本の松だけが生き残ったのか』 創英社／三省堂書店.

*

- Jameson, Fredric 1973 “The Vanishing Mediator or Max Weber as Storyteller.” → 1988 *The Ideologies of Theory: The syntax of history*, University of Minnesota Press.
- 佐藤俊樹 2005 『桜が創った「日本」——ソメイヨシノ 起源への旅』 岩波新書.
- Simmel, Georg 1909 “Brücke und Tür,” *Der Tag*, 15. (=1999 「橋と扉」北川東子（編訳）『ジンメル・コレクション』ちくま学芸文庫, 89-100.)
- 副田義也（編）2001 『死の社会学』 岩波書店.
- 周藤真也 2001 「社会学にとって『臨床』とは何か」『現代社会理論研究』11: 307-11.

※本稿は、2013年度早稲田大学特定課題研究助成費による特定課題A「東日本大震災の記憶と記録をめぐる人々の活動に関する知識社会学的研究」の研究成果の一部である。

